



中部青森会 副会長  
セントライ青果(株) 常務取締役

松野 邦彦

J A 津軽みらいの組合員の皆様、長期に渡り厳しい寒さが続く中、ご苦労が多いことと思います。

また、積雪についても平年より多いことから園地での枝折れを懸念しており、早く春の訪れを感じる時期が来ることを心より願っております。

さて、令和3年産の果実につきましては、全国的に各地で気象災害がある中、特に秋冬果実の生育が遅れ生産量が減少したことから、名古屋中央卸売市場においては入荷減の単価高で推移しております。

国産果実（1月計）入荷比91%・単価比111%、2月中旬まで入荷比83%・単価比115%）  
りんご実績（1月入荷比72%・単価比127%、2月中旬まで入荷比67%・単価比137%）

今後の他果実の動向については、中晩柑類に加え、生育が遅れている苺の増量が予想されており、また、5月連休頃からは西瓜・メロン・輸入果実の入荷が見込まれております。

そのような中、御地のりんごの販売につきましては、2年間に渡るコロナ感染による消費宣伝活動等の縮小や、高値基調による末端売価の高値から、平年よりも荷動きはやや鈍い状況ではあります。

ただし、在庫数量の少なさを鑑み、今後高値の産地情報・計画出荷・品質管理を遂行していただき、最終販売まで高値販売するように中部青森会一丸となり取り組んでまいりますので、今後とも宜しくお願いいたします。



関西青森会 会長  
大東大阪青果(株) 常務取締役

荒巻 万寿夫

産地の皆様には日頃のご厚情に対し、厚く御礼申し上げます。

【販売経過】

さて、令和3年産りんごは春先の凍霜害による影響大きく、各主産県では生産量・品質共に大きな打撃を受け、事前情報から他主産県の生産量減少により青森県産への依存度が高まり、食味も良かったことから、特に12月年末需要期の単価は昨年対比135%で推移しました。年明け以降は旧正月向けの輸出も一段落、国内への色薄果など下級品の出回り予想から価格の大幅な下げも想定されましたが、国産中晩柑や苺の出荷量が少なく、輸入果実についても、米国オレンジが過去10年に無い凶作とコンテナ需要混乱など、これと言った多い品目が無く、年内同様美味しいりんごが消費者に認知されたことから、単価は1月125%・2月134%で推移しました。

【今後の見通し】

競合品目で唯一苺の出回りが気にかかります。近年大粒系・軽量化（300g↓250g）であるが253番果が続いて出回る予想で、3月ひな祭り需要から3月末まで低単価で推移する見込みです。令和3年産りんごは近年に

無く『美味しい』を全面的に打ち出し販売に取り組んでいます。その分果肉先行型で、今後消費地も気温上昇となります。少ない在庫量とは言え、品質を見極め前倒しの継続出荷を行い、現在の売場の縮小を避けなければなりません。思惑に捉われない計画以上の出荷が成されれば、スムーズに有袋ふじへと切替わり、産地の期待に応えられる販売結果となると確信しています。

【組合員皆様へ】

令和2年産から一元集荷販売体制ですが、これは産地・市場にとって大きなスケールメリットであります。初年度は作業体制面で成果が出せず、3年産は量が少なかった。4年産は十分な結果を出さなければならぬ年であり、これは我々市場にとっても宿命であります。『量は力・品質は信頼』という言葉葉を耳にしますが、正しくその通りであります。今後も市場として産地の高齢化・後継者不足から高単価での販売継続は責務であり、津軽みらいりんごの更なる売場拡大に全力を注ぐことをお誓いすると同時に、組合員皆様へ高品質りんご生産は勿論の事、『津軽みらいのりんごが欲しい・食べたい！』全国の市場・量販店・消費者の求めに対し応えきれない現状にあります。令和4年産りんごは1箱でも多くJAへ入庫して頂くことを切にお願い申し上げます。



東京大田市場の競売